乍恐口上書を以奉願上候

一　城連寺村之儀此度水請堤被為　仰付被下

　　落堀之支請申間敷と難有奉存候、然共第一

　　地形ひきく場所ニ而南面ゟ之悪水一面ニ落懸り

　　申ニ付残田畑水場ニ罷成稲方麦作なとも

　　成申間敷と歎ヶ敷奉存候、然所ニ村之南際に

　　幅三四尺斗之通道御座候、乍恐御見分之上

　　此通道七八拾間程之間高四五尺斗かさ置被為

　　仰付被下候ハヽ東西者池之堤に取合申ニ付水難ヲ

　　遁耕作も成可申と奉存候、御慈悲之上かさ置

　　被為　仰付被下候ハヽ難有可奉存候

一　城連寺村惣高四百四拾弐石七斗余之内三百石余

　　新川床并落堀潰地ニ罷成漸残高百弐拾石余ニ而

　　御座候処又水場ニ罷成其上大水之節ハ居村へも

　　水入住居成申間敷と奉存候、左候ハヽ老親妻子等

　　迄も流浪可仕と弥歎ヶ敷迷惑至極ニ奉存候、

　　然者天道川御切違より下落堀迄之間古川床

　　御座候此場所者地高成所ニ而御座候ヘハ御救ニ

　　城連寺村居屋敷ニ奉願上候、左候ヘハ水難ヲ遁

　　住馴申所ニ百姓相続仕度と普ク奉願候、御慈悲

　　之上右願上候通城連寺村百姓相続仕候様ニ被為

　　仰付被下候ハヽ難有忝可奉存候、以上

　　　宝永元年申十月　　　　　　　　城連寺村

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　庄屋(印)(印)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　同村

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年寄(印)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　同村

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　百姓(印)

　　　　御奉行様